
神様の喘ぎ声

ペ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様の喘ぎ声

【Nコード】

N4690I

【作者名】

ペ子

【あらすじ】

神様の暇つぶしに付き合ってあげてください。

どうやら明日、世界が終わるらしい。私が終わらせるんだよ。滑稽で笑えるだろ。無慈悲だ、薄情だ、人情が足りぬ、好きなように言えばいいさ。そんなことを言われたって私には笑うという感情しが残ってないんだから。

私の手によって世界が終わるというのに、何も知らず生きている愚民が六十億以上いる。明日やればいい、無知の馬鹿が言う台詞だな。明日なんて言葉、もうお前達には必要ないんだよ。

「いい加減にしてください？」

「何が？」

「…何でこんな奴の部下になったんだろう。頭冷やそう」
自分も嫌な部下をもったものだと思える。

丸い物体を上から見下ろし目を細める。銀色のスプーンで今にも零れそうな青い液体を掬い上げる。その行為によって穏やかだった海は荒れ高波を引き起こし、海を涉っていた船はひっくり返ってしまふ。

「ひひひ、おもしろいなこれは」

まるで玩具を手に入れた子供のように無邪気に笑う。そんな姿を部下もまた呆れ、溜め息を吐きながら眺めている。

広い、広いという言葉は何度使えばいいかわからないほどの荒野。日差しが人間を覆い尽くす。歩き続ける人間達は水も無いまま、体の芯から搾り取られるように汗を垂らすだけだった。小さな子供も大人も動物も自然も、生命をもつすべてのものが水という潤いに餓えていた。それを上から見ている者は先ほどとは違い、何も言わず何もせず眺めているだけだった。

「何かしないんですか？」

「めんどくさいんでな」

“なんて薄情な！”と言つて勢い良く部屋を出る部下。部下がいなくなつたことを確認し再びその光景を見下ろす。

数人が荷物を持ちながら歩く中、一人の人間が倒れこみ死にかけていた。視点が合わず犬のように舌をだらしなく出す。

「神だ、すべては神のせいだ。この世界が不平等で我らがこんな目に遭うのは神のせい……」

疲れて眠ってしまったのか、彼はそれから一度も目を開けることはなかった。人々がそんな彼を置いてゆつくりと、それでいて重い足を進ませている中、一人の少女が横たわる人間の顔に布を被せた。日の光で彼の皮膚が干乾びないように、それは少女なりの小さな努力だった。

「神様のせいじゃないの。こうなつたのはすべて私達のせいなの。自分達のことしか考えない私達のせい」

熱だけがこもる大地、潤いさえ一滴もないこの場所で少女の虚ろな瞳から滴が流れる。その涙が水に生まれ変わればいいのに、と誰もが願うことしかできなかった。黙つて上から見ていた者、そして彼女を真似するように目から滴を出す。その透明なものを自分の指で掬い、少女の頭上に落としていった。

「雨…雨だ！雨だぞ！！」

上から降る恵みの雨を狂った姿で口を含む人間達。しかし少女は無表情に死んだ人間の亡骸に触れていた。

「もう少し早ければ、今日も明日も生きられたかもしれないのに」

明日世界が終わるというのに、真実を知らない少女は消え入るよ

うな声で言った。

「あれ？珍しいじゃないですか、慈善活動ですか？」

「この雨は少女の涙と等価だ」

「滑稽なもんですよね。明日あなたの我俣のせいで消えるんですからこの星は」

ガラスケースに入りたいいくつもの丸い物体。僅かに上下しながら引力によって浮いている。その中に青く、一際美しい星があった。

「別にいいですけどね、こっちは調査しなくて済むんですから。でもこんな星は滅多にないですよ。もったいないな」

ぶつぶつ言いながら部下は資料を眺め部屋を出ようとした。

「やめだやめ。中止だ」

「え？」

「壊すのやめた。ここまで創りあげたものを壊すのは気が引ける」

「いいんですね？あなたのその言葉、信じますよ」

彼は球体を横目で見るともう一度意を決して言った。

「もう一度この者達に賭けよう。ただし、もう一切手はつけぬ」

「悪戯も駄目ですからね。さーて、仕事するか」

部下が部屋から出るのと同時に、球体の上からじょうろで水をあげ始めた。水は蒸気になり白い雲へと変わる。

「地球も可哀想に。あんな気まぐれな神じゃ身がもたないよ」

頭を抱える部下をよそに、神はこっそりまた地球に悪戯をしていた。回る回る、地球は何も知らず回る。

今日の天気は一日雨でしょう。

（後書き）

サイトに載せているものに修正文章を加えたもの。
神は人間の想像物。人間は神の創造物。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4690i/>

神様の喘ぎ声

2010年10月17日06時44分発行